

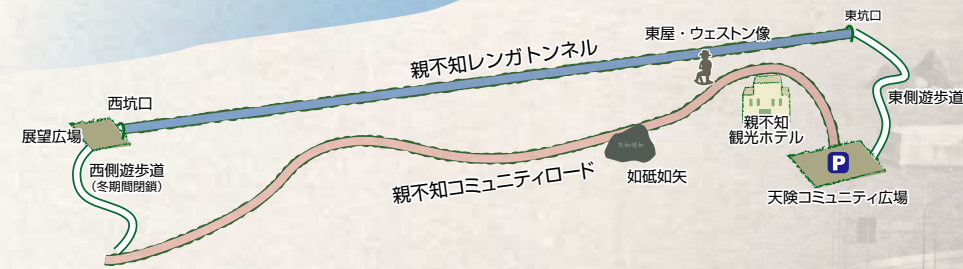
親不知

おやしらず

国名勝・天下の險

親不知レンガトンネル～親不知コミュニティロードの周遊は約2km、所要時間は60分～90分です。

※遊歩道は斜面にあるため昇降があります。西側遊歩道は、冬期間（12月～3月）閉鎖します。



親不知レンガトンネルと親不知コミュニティロードを周遊して、北陸路一の難所「天険親不知」と鉄道遺産の壮大な歴史を感じてみませんか。

「親不知レンガトンネル」の歴史

「親不知レンガトンネル」は、北陸道最大の難所天険親不知の断崖絶壁を貫通させ、整備された鉄道トンネルです。明治39年4月に富山・直江津間の実測が始まり、明治40年3月から両端より工事が施工され、大正元年10月に竣工しました。用いられたレンガの多くは大阪より海路にて運ばれ、地元産のレンガも使われました。

鉄道網が整備されて以降、当地域では黒姫山から産出される石灰石が北陸一体に輸送され、産業経済のみならず生活文化についても地域の近代化に貢献しました。しかし、昭和40年に複線化となり、貨物や旅客の輸送の役目を終え廃線となりました。



奥に見えるのが「親不知レンガトンネル（西側坑口）」（大正初め頃）

親不知レンガトンネル

現在の「親不知レンガトンネル」

建造から100年以上が経過しますが、断崖絶壁にあるレンガ積みみのトンネルは、絶大な存在感があり、当時の土木工事の英知を語りかけてくれる貴重な土木遺産です。

トンネル内はフットライト等が設置され、通行できるように整備されました。「親不知コミュニティロード（親不知旧道）」と遊歩道で結ばれ、周遊することができます。



ウェストン像



展望広場（トンネル西側）



親不知レンガトンネル

基本データ

用途	旧鉄道トンネル
形式	山岳トンネル、レンガ積み
延長	667.82m
幅員・高さ	4,572mm・4,700mm（鉄作乙第4375号形断面）
竣工	大正元（1912）年 ※明治40（1907）年起工
備考	昭和40（1965）年に廃線

アクセス

- ▶ 北陸自動車道親不知ICより
天険コミュニティ広場まで車で4分
- ▶ えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン
親不知駅より
天険コミュニティ広場まで車で8分
- ▶ 天険コミュニティ広場より
親不知レンガトンネルまで徒歩7分

お問い合わせ

糸魚川市総務部青海事務所 振興係
 〒949-0392 新潟県糸魚川市大字青海4648-11
 TEL.025-562-2260 FAX.025-562-5174
 E-mail omishisyo@city.itoigawa.niigata.jp

糸魚川市観光協会 観光案内所（ヒスイ王国館内）
 〒941-0061 新潟県糸魚川市大町1-7-11
 TEL.025-553-1785 FAX.025-553-1786
 E-mail itokan@world.ocn.ne.jp



糸魚川ジオパーク
 マスコットキャラクター
 「ジオまる」と「ぬーな」

糸魚川ジオパーク親不知ジオサイト

国名勝・天下の險「親不知」は、

かつて北陸道最大の難所と呼ばれました。断崖絶壁と日本海の荒波が旅人の行く手を阻み、わずかな波打際を駆け抜ける際に親は子を忘れ、子は親をかえりみるとまがなかったことから「親知らず・子知らず」と呼ばれるようになったと伝えられています。

また一説には、源平盛衰の昔、平清盛の弟・頼盛が越後五百刈村へ退隠。夫を慕って越後へ向かった夫人がこの地を通りかかり、二歳の愛児を荒波にさらわれてしまいました。

親知らず

予はこの浦の波すくら
越路の磯のあわと消えゆく

夫人が悲嘆にくれて詠んだこの歌が「親不知」という名の由来になったといわれています。

人と自然との壮絶なドラマを数多く残してきた親不知。日本海に沈む美しい夕日を、かつての旅人たちは、どんな思いで眺めたのでしょうか。その圧倒的な自然美は、今も昔も多くの人を惹きつけます。

